

DF8 取扱説明書

DF8 口腔知覚判定研究用キット（以下、DF8）は口腔内の立体認知能力の研究用に開発されたものであり、医療用診断・判定機器ではありません。
使用者は以下の確認事項・禁止事項及び使用法を十分に理解した上で使用してください。

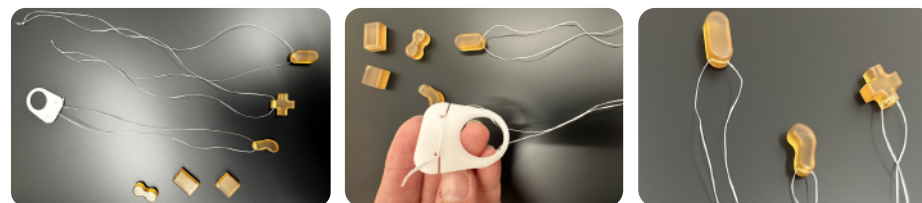
1. 重要な確認事項・禁止事項等

- ① 口腔知覚判定の研究においてのみ使用できます。
誤飲・口腔内での破損事故等に留意し使用してください。
- ② DF8 の滅菌・消毒はオートクレーブ消毒を基本としています。再使用時には必ずこのオートクレーブ消毒を実施済であることを確認してください。
最大 500 回のオートクレーブ消毒を可能としていますが、白化等の変色等があった場合は破損の恐れがあるので、直ちに使用を中止してください。
- ③ テストピース単独での使用は誤飲の可能性があります。
必ずデンタルフロスをテストピースの穴に通して使用して下さい。
- ④ 使用前にテストピースの破損がないことを確認してください。
もし破損や変色等があった場合は使用を中止してください。
- ⑤ 実施者の指示を理解できない者には使用しないでください
(例：認知症や失語症、高次脳機能障害など)、誤飲や誤嚥した場合、直ちに実施を中止してください。
- ⑥ 保管は乳幼児・認知症患者等の手の届かない場所に保管してください。

2. 準備

- ① 2 ページ目の「[8 個のテストピース図](#)」を印刷してください。
- ② 被験者の誤飲を防止するために、テストピースの穴に通して使用するデンタルフロス（ワックス無）を準備してください。
※ワックス付きのデンタルフロスは滑るため、結束が困難な場合が多い。
- ③ テストピースは使用前に必ずオートクレーブ消毒後であり衛生的に保管されていることを確認してください。
- ④ テストピースの破損や変色が無いことを確認してください。
もし破損や変色などあった場合は使用を中止してください。

- ⑤ テストピース穴ごとにデンタルフロスを通し、約 40 c m の輪をつくり、その端をほどけないようにしっかり結束し、専用持ち手の溝に通してください。
8 個のテストピースにこのデンタルフロス輪を作成してください。下記写真参照。



4. 被験者への留意事項説明

- ① 被験者に研究目的を説明し、同意を得てください。
- ② 実施方法を説明し、誤飲、誤って嘔まないように注意を喚起してください。

4. 使用法例

新井慎先生（言語聴覚士／前目白大学保健医療学部言語聴覚学科 助教）使用法例

★参考文献

新井慎、立石雅子、寺中智、藤谷順子：健常者における口腔立体認知

—口腔知覚判定研究用キット DF8 を用いた検討—

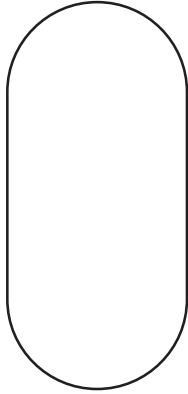
日本摂食嚥下リハビリテーション学会誌、25(1)：11-21

- ① 「[8 個のテストピース図](#)」を印刷する。
- ② 8 個のテストピースにデンタルフロスと専用持ち手がついていることを確認する。
- ③ 被験者には使用するテストピースを見せずに、口腔内に入れ、自由に動かし形状の識別を促す。
- ④ 被験者の認識が終わったら「8 個のテストピース図」のどのテストピースであるか選択を求める。
- ⑤ 8 個のテストピースをランダムに選択し、すべて実施する
★詳細な使用法は前述の文献をご参照ください。

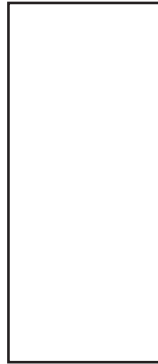
☆本 DF8 は藤谷順子博士（国立国際医療研究センター病院リハビリテーション科長）と当社が共同研究した製品です。

8個のテストピース図

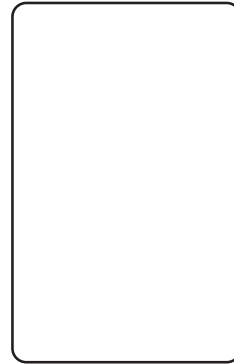
楕円形



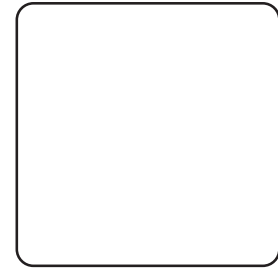
細長方形



長方形



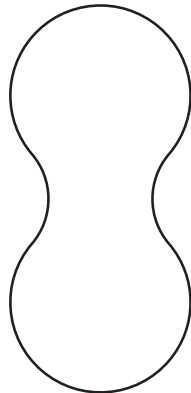
四角形



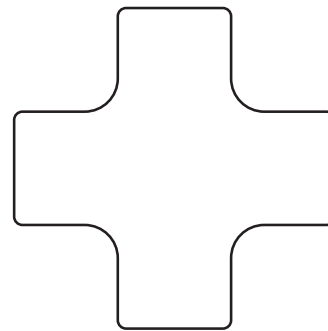
尻尾型



瓢箪型



十字形



鋭十字形

